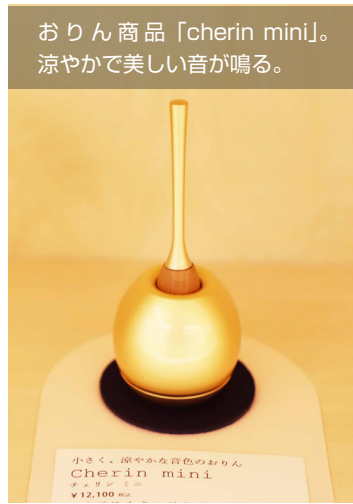




入り口に並ぶ雨樋商品。実際に水を流すこともできる



おりん商品「cherin mini」。涼やかで美しい音が鳴る。

小さく、涼やかな音色のおりん
cherin mini
¥12,100 (税別)



瀬尾製作所の入り口。壁全面に銅板が使用されている。



おりんの製作現場。形状加工された真鍮が、金や銀に美しく色付けされていく。



工場の一角。各セクションに、製作中のオリジナル商品が整然と並んでいる。



老舗企業が挑む金属加工の新しいいかたち 瀬尾製作所株式会社

本社ショールーム。洗練された空間に、数多くのオリジナル商品が並べられる。



瀬尾製作所 株式会社
代表取締役社長
瀬尾 良輔 氏

富山の金属加工メーカー・瀬尾製作所が、中小企業庁が主催する「二〇二三年度はばたく中小企業・小規模事業者三〇〇社」に選出された。この賞では「事業変革や新規事業に挑戦し、地域経済や日本経済の成長への貢献が期待できる」企業が表彰される。高岡銅器の製造元としても有名な瀬尾製作所はどんな企業なのか、その魅力を探るべく富山県高岡市へと向かった。

● 変革を象徴するふたつのブランド

JR新高岡駅から車で十分ほどの場所にある瀬尾製作所。本社入り口には自社製品である雨樋が飾られており、壁全面に貼られた銅板が存在感を放っている。赤褐色の板が日の光を反射して美しく輝き、ところどころに見られる銅ならではの経年変化も面白い。しばらく入り口の意匠に見入っていると代表取締役社長の瀬尾良輔氏が出迎えてくれた。

入ってすぐの場所に自社製品を展示したショールームがある。自社商品が展示されている洗練された空間は、アートギャラリーのような佇まいだ。仏具ブランド「Sotto」はグッドデザイン賞を二度受賞しており、雨樋ブランド「SEO Rain Chain」のデザインも多彩だ。ただ、これらは見た目ありきで作られたわけではない。優れた意匠には必然性があるのだ。

「高岡銅器の歴史は、常に変化しています。銅や釜といった鉄製物がメインの時代があったり、戦後は仏具を作り始めたり、時代の流れに沿って作るものも変わってきました」バブル崩壊後に銅の需要が下降する中で、瀬尾製作所も時代の変化に対応するための製品を考え続けたという。

「例えば仏具のおりんですね。需要が右肩

下がりになっている要因として、形に対する先入観が強すぎる可能性があるように思いました。ライフスタイルが変化していく中で、家に置けるようにするには、と考えたんです。」瀬尾氏はデザイナーと打ち合わせを重ねて、現代の居住空間にもなじむ斬新なデザインの仏具を開発し、二〇一五年に「Sotto」を立ち上げる。「SEO Rain Chain」も「今の生活空間に合うように」というテーマで開発した自社製品だ。ふたつのブランドは世間に広く受け入れられ、自分たちの考えは間違っていないと確信できたそうだ。

● 受け継がれる挑戦の精神

続いて工場見学へ。プレスや塗装といった各セクションの職人さんたちが丁寧に仕事を進めている。最後の箱詰めまで見せていただき、企画から納品までのすべてを担う瀬尾製作所の強みを実感できた。完成品まで手がけるメーカーの利点のひとつは、お客様との距離が近いこと。「賛否両論ふくめて、お客様の感想を聞けることは大きなやりがいにつながっています」と瀬尾氏は話してくれた。

瀬尾製作所のウェブサイトには、「伝統とは革新の連続である」の言葉を胸に、新しい価値を創り出すことができる会社を目指します」とある。一九三五年の創業当時から挑戦する企業文化が受け継がれているのだらう。

「そうですね、それはあるかもしれません。創業当時、高岡のものづくりは銅製物が中心でしたから、その状況下で板金業に挑んだというのは、新しい試みだったと思います。」

今もさまざまな挑戦を続けるが、大規模になると事業化には難しい面もあるという。「自分たちの規模に合ったものづくりをし

ていきたいですね。これ不便だなとか、何でこれは使われなくなってきたのかとか、日常の中にコンセプト決めのヒントが隠れています。」

創業以来の挑戦の精神を受け継ぐ瀬尾氏にとって、日々の生活こそがアイデアの宝庫のようだ。

● 高岡から世界へ

「SEO Rain Chain」のシリーズには、「網代」という純銅製の雨樋がある。銅にはどんな魅力があるのだろうか。

「やはり経年変化ですね。素材としての強さはステンレスにかなわないですが、銅にしかないあの色はとても魅力があります。意匠材としても素晴らしい金属ですよ。」

銅に限らず金属加工の魅力を発信すべく、鍛金技術で真鍮や銅製のスプーンを作るワークショップを始めるなどの新しい挑戦を続ける瀬尾製作所。インバウンド需要を見据えて、コロナ前には新宿にショールームも構えた。特に雨樋のラインナップが海外で人気があるという。

「世界中のいろんな国の方から注文がきますよ。多くは装飾として買ってくれているんだと思いますが、どこで知ってくれたんだらう、って不思議に思うこともあります。」

高岡の地で作られた瀬尾製作所の製品が海を渡り、世界の人々の手元に届いている。瀬尾製作所が生み出す商品は、これからも常に変化しながら人々の暮らしに彩りを添えていくはずだ。

銅の街高岡の「高岡大仏」



高岡銅器の代表作といえば、日本三大仏のひとつとされる高岡大仏だ。JR新高岡駅のすぐそばにあり、瀬尾製作所からは車で15分ほどの場所にある。朝8時、気持ちのいい青空の下で尊像を拝観することができた。総高15m85cmで台座は回廊となっており、明治時代の高岡大火で消失した際の焼け残りとしてこの尊像が安置されている。閑静な街並みにそびえ立つ青銅製の阿弥陀如来坐像は、ものづくりのまちを見守るように存在感を示していた。

